

で、ご注意を。ただ、冬靴に履き替えても、なかなか雪道を歩くのは怖いとか。重心をほんの少しだけ前にかけるというコツはあるようですが、ケガをしない範囲で転びながら体で覚えていきましょう。ちょっと無責任ですが、スキーを習うのと同じで「習うより慣れろ」です。

道路の頭上に矢印が?

冬の生活の中で大変だと思われることに除雪作業があります。国道や主要な道路には、除雪車が入ります。「スノーボール」というものもあります。白と赤に色分けされたボールですが、雪が積もる前に路肩に設置され、除雪の作業の目印になります。また国道や主要道路に見られる矢印(矢羽根付ボール★3)は、雪



★3

でわかりづらくなった車道と歩道の境を知らせる目印で、雪道の運転には必要不可欠です。一方、自宅まわりの除雪には、小型の除雪機もありますが、まだまだ高額なので、人力に頼っているのが現状です。各家庭では金属製・アルミ製やプラスチック製で形も大きさも様々な除雪用具を備えています。雪質や使用者の体力に合うように年々工夫改良されて新しい形態のものがでできます。これも雪国ならではの知恵かもしれません。

美瑛町観光協会 ⑤

雪の中の運転は・・・

当然ながら、北海道の車は寒冷地仕様です。初雪の気配を感じたら、冬タイヤ(スタッドレスタイヤ)への交換です。ワイパーも冬期仕様のものに交換します。欠かせないのがスノーブラシで、伸縮する棒にブラシとゴムの板がついています。車体に積もった雪をブラシで払い、凍ったフロントガラスなどをゴムで削り落とすのです。最近、遠隔操作できるエンジンスターターの普及で、室内から車のエンジンをかけることができ、車内を暖め、運転準備してくれます。さて、運転です。基本はスピードを出さず、急ブレーキ、急ハンドルなどの急激な操作をしないことです。アイスバーン、ブラックアイスバーン(見た目にはアスファルトだけれど、実際は凍っている)など冬場は常に路面状況は不安定です。また、道路の脇に積まれた雪山が死角★4になりますので、歩行者などの急な飛び出しにも注意が必要です。ほかにも轍(わだち)での走行など、夏の運転にはない体験が待っています。これも慣れかもしれませんが、吹雪など不安な天候の時は運転しないという判断も大事かもしれません。



★4

～コラム★冬の体験談～ 身も凍るお話

10年ほど前の話です。富良野に移住するため、3月桜の東京を車で出発、フェリーで苫小牧に上陸。雪のない苫小牧から一路富良野へ向かいました。日高に近づくにつれ、風景は一変! 吹雪です。3月なのに雪が…奇跡的に積んでいたチェーンを装着し、事なきを得ましたが、道中は生きた心地がしませんでした。そして、後日談があります。その後、この車はブラックアイスバーンの路面で滑り、対向車と衝突。廃車となってしまいました…。幸いけが人は出ませんでした。(記者Aの実話より)

冬を楽しむ

-15℃以下という厳寒の日も何日かあります。そんな時、水道管の中に水がたまっていると、凍って膨張し「水道管破裂」という事態になることがあります。

前夜に水道を止めて水を抜いておかなければなりません。本紙ピープルのコーナーでお話を聞いた美瑛町の谷尾さんは「ボイラーが破裂したことがあるのよ」と言いながら「そんな凄くしげれた日は、景色がまた違って見えるの。キラキラと輝きすぎきれい!」とめげません。また、本紙文化号に登場のデミアン・オケインさんは「雪ハネ★大好き!」と言います。冬の大変さも楽しみに換えられる、そんな思いが冬の生活を乗り越える力になるのかもしれません。今回話を聞いた人たちは異口同音、雪の十勝岳連峰や芦別岳など景観の美しさをあげ、雪のない冬の生活は、ただただ寒いだけで、もの足りないと言います。冬の厳しさを冬らしさとして楽しむポジティブな考え方も素敵です。スキーやスノーボードでパウダースノーを楽しみ、地域の雪まつりで遊びます。北国特有の冬の厳しさはありますが「住めば都」です。

★雪ハネ：除雪のこと 雪かきともいう



びえい雪遊び広場 ⑥

移住者に聴きたい

～第八回～

南富良野町
くりはら みつひろ
栗原 光弘さん

栗原光弘さん 神奈川県秦野市出身移住して1年目

長期間学校に行くことができない「不登校」や「NEET(ニート)」と呼ばれる若年無業者は年々増加しています。神奈川県出身の栗原さんは県立及び定時制高校の教員として不登校の生徒に向き合う中で、このような子どもたちが元気になる場所を大自然の中に創ることを決意し、早期退職しました。2011年春、観光地化されことなく大自然が残る南富良野町北落合に移住。NEET・不登校支援「くるみの学校」を設立しました。町木である「くるみ」の実実は固い

殻に覆われ、不登校になった子どもの姿と重なります。いつの日か「くるみ」のようにその殻を割り、芽吹き、立派な木となつてほしいとの願いを込め「くるみの学校」と名づけました。ドッグランも整備されており、3頭のコリーがセラピーアニマルとして役割を担っています。野外でのスポーツ研修や農業体験を通して、人や自然と触れあい、自分を見つめ直すきっかけになれば…栗原さんの夢は北落合で動き出しています。(文) さて、今回で最終回 — 8回の連載と2回の拡大版でご登場いただいた17名の皆さん、ありがとうございました。

くるみの学校 事務局 ☎090-1428-7725
〒079-2552南富良野町北落合



ドッグランと完成間近の校舎(H23.12.6撮影)

のんびり散歩道

散歩道 ⑩ エゾリスコース

北星山内・エゾリスの道 約1.7km/約35分

展望台から見る中富良野

夏はラベンダー園、冬はスキー場と季節によって違う魅力を持つ「北星山」。中富良野在住で森林インストラクターの佐藤まゆみさんと一緒に、冬の北星山を歩きました。佐藤さんの散歩を楽しむコツは、空気の匂いや野鳥の声など身近なものに「神秘的や不思議さを感じながら歩く」とことと「静寂な時間を作る」ことです。管理棟の駐車場から5分歩くと展望台に到着しました。中富良野の街並みや十勝岳連峰、富良野西岳が見渡せる佐藤さんお気に入りの場所です。天気の良い日は、中富良野を一望する



▲佐藤さんは2年前に東京から移住 ▶北海道健康づくり財団認定コース パノラマが広がるそうです。コース中盤で歩みを止めて「静寂の時間」を実践しました。風の冷たさ、シジュウカラの声、雪の匂いや降る音…短い時間ですが体全部で自然を感じ、佐藤さんのコツを少し実感できました。さて、10回お届けした散歩道は今号で終わります。地域の魅力をどこまで伝えられたか不安ですが、これからも歩いて魅力をいっぱい見つけていきたいと思っています。(な)



手づくり看板が目印!